



羊飼いの野(上) 新約聖書の出来事①

イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス、聖書の中でイエス誕生の記述はマタイ福音書とルカ福音書にある。

「ヘロデ王の時代、ユダヤのベツレヘムにお生まれになったイエスを東方の三人の博士が星に導かれて拝みに来り、馬小屋セツトの羊飼いの像はそれを表した」に由来する。



たものだったのである。

小高い丘の上にあるベツレヘムから坂道を下って二、三ほど離れたベイト・サフルという村に「羊飼いの野」と呼ばれる所がある。

ルカ福音書によると、そこで羊飼いたちが野宿をしながら羊の群れの番をしていると天使が近づき「恐れるな。私は民全体に与えられる大きな喜びを告げる。きよう、ダビデの所で、あなたの方のために救い主がお生まれになった。その方こそ主メシアである。あなた方は、飼葉桶の中に乳飲み子を見つけておられる」と告げる。そして有名な「いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、御心に適う人にあれ」と言う。

そうして、羊飼いたちはその出来事を見ようとベツレヘムに行ったのである。

ベツレヘムの生誕教会にだけ関心を持ち、羊飼いの野の教会の存在は知らなかったが、調べるとガイドブック「地球の歩き方・イスラエル編」にもその記述がある。

今回初めてベイト・サフルの羊飼いの野を訪ねた。そこにはローマ・カトリック教会をはじめギリシャ正教会、ルター派の教会などの

聖堂内のイエス誕生の壁画



「羊飼いの野の教会」が建てられている。フランススコカが運営するローマ・カトリックの羊飼いの野の教会を訪ねた。ベツレヘムの生誕教会に比べると小さく、訪れる人も少ない。しかし四月初めという季節の良さもあり、周囲には美しい花が咲き乱れていた。教会入り口の上にはイエスが吠き乱れていた。教

無駄だったのだろうか？余りに空しい事件が多過ぎる。

当時の社会で、羊飼いは最も身分が低く、神がその人たちに最初



羊飼いの野の教会

ルター派の教会などの